

特産品シリーズ

Special Product Series
Vol.53



鶴田さんが最もこだわるのは糖度。巣の中に蜜をどめる時間が長いほど糖度の高い蜂蜜に仕上がります。蜂は日中採集した40

度には満たない蜜を夜の間に羽で仰ぎ、水分を飛ばすことで、80度近くまで上げる。一般的にはこの時点で蜜を採取するが、鶴田さんはそこからさらに10日間程度、巣にとどめてから蜜を採取する。しかし、とどめる時間が長くなると、蜂は新たな女王蜂を育て、別の場所に巣を作り逃げ出してしまふことがあるため、対策をとる必要がある。作業は、蜂を傷付けないように200箱以上ある巣箱を素手で一つひとつ丁寧に行っている。蜂に対する愛情や献身的な努力によって、濃厚で甘く深い味わいの蜂蜜が完成する。鶴田さんの蜂蜜は、季節の花々の蜜が混ざり合った「百花蜜」。4月〜5月に採取した蜂蜜は、ハゼノキの花の蜜を主とするすっきりとした風味。6月はアカメガシワの花の蜜を主とする濃厚な味わいが特徴だ。「季節で変化する指宿の自然の味や色を楽しんでほしい」と真剣に話す鶴田さんの言葉には、自然を愛する思いが込められていた。

丸ふるさと納税室特産品振興係 ☎2111

自然が大好きな鶴田恭久さんは、11年前まで会社員だったが、たまたまテレビのドキュメンタリー番組を見たことがきっかけで人生が変わったと話。大自然の中、蜂蜜を生産する養蜂家の姿に心を奪われ、独学で勉強を開始。休日は、曾於市の養蜂家を訪ね、作業を手伝いながら技術を学んだ。「自然と共に生活したい」との思いが強く、鶴田さんは、会社を辞め、弟子入り。修行を重ね、4年前に独立して指宿に養蜂場を立ち上げた。

温暖な指宿での養蜂は苦勞の連続だと話す。猛暑で巣箱内の温度が上がると、たくさんの蜂を失ったことがあった。それ以来、巣箱内の温度を調整するために、巣箱の周りに毎年数十本の木を植え、陰を作ったり、森の中に避難させて風通しのよい涼しい環境を整えたりするなど真夏の暑さをしのぐための工夫を絶やさない。

自然への愛で生み出す黄金の蜂蜜

度には満たない蜜を夜の間に羽で仰ぎ、水分を飛ばすことで、80度近くまで上げる。一般的にはこの時点で蜜を採取するが、鶴田さんはそこからさらに10日間程度、巣にとどめてから蜜を採取する。しかし、とどめる時間が長くなると、蜂は新たな女王蜂を育て、別の場所に巣を作り逃げ出してしまふことがあるため、対策をとる必要がある。作業は、蜂を傷付けないように200箱以上ある巣箱を素手で一つひとつ丁寧に行っている。蜂に対する愛情や献身的な努力によって、濃厚で甘く深い味わいの蜂蜜が完成する。鶴田さんの蜂蜜は、季節の花々の蜜が混ざり合った「百花蜜」。4月〜5月に採取した蜂蜜は、ハゼノキの花の蜜を主とするすっきりとした風味。6月はアカメガシワの花の蜜を主とする濃厚な味わいが特徴だ。「季節で変化する指宿の自然の味や色を楽しんでほしい」と真剣に話す鶴田さんの言葉には、自然を愛する思いが込められていた。



いぶすきまるごと博物館 vol.178

鹿児島藩第10代藩主島津齊興は、異国船が次々と領内に来航してしまうため、藩主に就任して以降、その対応に苦慮していました。齊興は、その外国勢力を退ける呪詛（相手に災いが及ぶように神仏などに祈願すること）を行っていました。弘化4年（1847）にあった揖宿神社の造替は、その一環としての意味を持っていたことが明らかになったのです。今回指定になった「揖宿神社弘化四年銘棟札」「敵国降伏」扁額」「騎射武人（伝那須与一）」扁額の3点の文化財は、そのことを如実に示す貴重な資料です。

1つ目の「揖宿神社弘化四年銘棟札」は、揖宿神社の社殿造替が齊興によって行われたことを明らかにする資料です。合わせて棟札には社殿造替に実際に携わった当時の家老兼側詰や大目付寺社奉行をはじめ、指宿郷の郷士年寄や大工頭などの人名も列記されており、幕末期の公的事業の内容もよく分かります。

2つ目の「敵国降伏」扁額は、齊興が揖宿神社の完成に合わせて、揖宿神社へ奉納したものです。「降伏」には「神仏の力や法力によって悪魔・煩惱・怨敵などを取り鎮めること」の意味があり、外国勢

新市指定文化財：「弘化四年揖宿神社造替関係資料3点」

力を神仏の力で追い払いたいという齊興の強い意志が込められていると考えられます。

そして、3つ目の「騎射武人（伝那須与一）」扁額は「敵国降伏」の扁額と同時期に揖宿神社神主によって奉納されたものです。その裏書きには、齊興の武運長久などが記されるとともに「敵国降伏」の文字があることから、揖宿神社の造替が国家鎮護の意味が込められていたことを裏付けているのです。

幕末期の日本は、外国の圧力によって鎖国から開国へと向かいつつあった激動の時代であり、その最前線であった鹿児島藩の藩主齊興はさまざまな対応策を講じていました。その事業の一環として揖宿神社の造替を行っており、齊興の精神的支柱の1つに揖宿神社が存在していたことを、3点の文化財は今に伝えています。

歴史文化課文化財係 ☎25100



揖宿神社弘化四年銘棟札▶

スポーツでまちを元気に Sports Commission スポ☆コミ Vol.11

SC I (スポーツコミッションいぶすき) は、地域スポーツコミッションとして、スポーツ庁の認定を受け、人口減少対策のひとつとして、スポーツ合宿、大会、イベントを誘致・開催することで指宿を訪れる人を増やし、地域交流や地域経済の活性化につなげる取り組みを行っています。

ワンツースoccer寄付金で購入した備品を貸し出します

1月30日に開催した「いぶすきワンツースoccerフェスタ」では、多くの寄付をいただきました。支援いただいた皆さん、ありがとうございました。本フェスタで購入した備品は、ワンツースoccer実行委員会と協議した結果、以下の備品を貸し出しすることになりました。サッカーの技術向上や普及、さまざまなスポーツ活動、いぶすきフットボールパークをはじめとするサッカー場などを利用する際に役立ててください。利用料は無料です。利用を希望する場合は、電話で問い合わせてください。



ミニゴール	横3m×縦2m 組み立て式 軽量	8台
ラインマーカー	ストレート(37cm×7cm)12枚+Lタイプ(27cm×27cm×6cm)4枚	8セット
ビブス	ジュニアサイズ(1番~11番)、カラー:白、青、だいだい、桃、グレー、黒、紫、水色(要洗濯)	8セット
検温器	非接触式 ※電池は単4電池が2本必要です。使用台数分の電池を用意してください。	6台

利用条件：市内での利用であること。※詳しくは、問い合わせください。

☎SC I 事務運営部 ☎21014

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会



大会会期決定



令和5年(2023)に県内で開催される「特別国民体育大会」・「特別全国障害者スポーツ大会」の大会会期が決定しました。

「特別国民体育大会」は、令和5年10月7日④〜17日⑤の11日間、「特別全国障害者スポーツ大会」は、10月28日④〜30日⑤の3日間です。

＜本市での開催予定競技（開催場所）＞

- 【特別国民体育大会】
- ゲートボール競技(公開競技)：市営陸上競技場
- ソフトボール競技(正式競技)：開聞総合グラウンド
- バドミントン競技(正式競技)：指宿総合体育館

【特別全国障害者スポーツ大会】

- ・グランドソフトボール競技(視覚障害者)：開聞総合グラウンド
- 競技会期は、令和2年(2020年)の日程を基本として、今後決定される見込みです。2年後の両大会の成功に向け、引き続き開催準備を進めていきます。皆さんの協力をよろしくお願いいたします。

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会 指宿市実行委員会事務局 (ふれあいプラザなのはな館内) ☎21014

